

第14回神戸市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和7年2月3日（月）13時30分～15時00分

場 所：三宮国際ビル 2階会議室

協議事項①：北区唐櫃台地域コミュニティ交通「からとんくるりんバス」の本格運行の実施について

委 員：出席者10名、欠席者3名（事前合意書2名、当日欠席1名）

学識経験者 土井 勉、猪井 博登（合意書）

市民代表 植田 里美

交通事業者 大野 宗誉

各種団体 新屋敷 昭一（当日欠席）、下谷 富雄、三宅 勝

関係行政機関 木原 健太、鎗水 正和（合意書）、黒阪 貢一、前田 英輝、久保 真成

→協議が整った

主な発言内容：

坂本：地域の人口と運行経費はどのくらいか。

大野：1800世帯ほど、4000人くらい。人件費・燃料費など、15000円くらい。

土井：ルートを見直したあと、2回目の試験運行と比較すると、全体では少し利用者が減っているが、原因は何か。

大野：季節的要因だと思われる。冬場を迎えているためだと思う。

土井：利用について、今まで外出していなかった方が使うようになったか。そういった調査はされているか。

植田：唐櫃台は、平地がほぼなく急坂で、高齢化が進んでいる。バスの運行によって、外出される方がとても増えた。今までご家族が送迎してもらっていたが、バスによって、自分で外出することができるようになった、という声もいただいている。今後も持続してほしいという声が、アンケートからも寄せられている。地域としても活気が出てきている感じがしている。

土井：バスが通ることによって、活気がうまれることが最も大切である。

地域コミュニティ交通の導入成功事例として、データをとっていただき、いろいろな形でアピールしてもらえるといいと思う。

木原：時刻表では複数の運行がになっているが、実態としては継続して運行する状態になるので、1ルート乗った後、乗ったままで次のルートに行けると思うが、続いて乗れるのか、一度降りたことになるのか。

大野：乗ったままで次のルートに行けるが、基本、1運賃1ルートずつとなっている。

（以 上）

協議事項②：東灘区西岡本7丁目地域コミュニティ交通「ヘルマンバス」の運行内容変更について

委員：出席者8名、欠席者3名（事前合意書2名、当日欠席1名）

学識経験者	土井 勉、猪井 博登（合意書）
市民代表	坂本 順子
交通事業者	円城 陽樹
各種団体	新屋敷 昭一（当日欠席）、下谷 富雄、大場 光彦（植野 良子の代理出席）
関係行政機関	木原 健太、鎗水 正和（合意書）、久保 真成

→協議が整った

主な発言内容：

下谷：4月から9月まで日祝運休とあるが、どう手続きされるつもりか。期間限定の休止か、運輸期間の変更か。

陸運：定時定路線のため、ダイヤの変更で処理する。またもとに戻すときに日祝も動かす、という届を頂く。

坂本：乗客定員6人から4人に減ることは、地域にとって大変な痛手である。ヘルマンバスは、ヘルマンハイツという680人しか住民がいない中で、他の丁目の方々にも利用していただいて、利用者数を確保してきた。事業者の事情もあると思うが、4人しか乗れず、つらいところ。運行ルートの変更なども考えてみている。680人しかいない中、1日平均50人はいいい数字だと思っているが、利用が減り目標を下回ると廃止になってしまう。このような事情もあるので、どうやって起死回生できるか、考えていかないといけないと思っている。

前田：コミュニティ交通として、乗務員の方ともフレンドリーな関係ができています。地域から愛されている声も聞いているので今後も運行を続けていただくようお願いしたい。

和田：車両に関しては、もともとプレゼンテーションのときから普通車（EV車）で行っていた。たまたま、運行が始まる前に、東京からもらいうけてエスクワイアを使用することとなった。現在は、車両が走行距離もかさみ、ガソリン車ゆえに距離にも弱く、修理などのコストもかさんできたというところもあり、市の補助金が限られる中でも、コストのかかる車両で地域コミュニティ交通を走ることとは適していないと考える。

また、乗務員に対する評価はうれしく思う。採用も乗務員教育も努力しているところである。

土井：気になるのは、4人乗りでは大変であること、人数が増えて積み残しが出てきたときには、併用車両が3台あるので、積み残し対応するということでのよい。

和田：積み残しは、事業者のみでは決定できないが、併用車両3台の構成は、積み残しのためではなく、乗務員の休憩場所などとするところがないので、交代制で行うことになったためである。

土井：積み残しは特定の時間に利用者が多いと、必ず発生してくる。

積み残しが発生してきたら、対応が必要となるので、あらかじめ3者で検討しておいてほしい。

市：4月以降の様子をみて、検討していけたらと思っている。しおかげのときに、3名以上待っていたら、増便したこともあるが、すぐに来ることはできず、うまくはいかなかったという経験もある。

坂本：補助金の問題もある。たくさん乗ると、補助金が減らされる。何らかインセンティブがあると運行も行いやすい。補助金のあり方は考えていかないと、続いていかないと思う。

土井：補助金は赤字補填する仕組みなので、利用が増えれば減らされてしまい、努力しないほうが補助金が増えるというモラルハザードのような状態にはなる。もともと黒字になるわけがない状態で、継続する仕組みを作りたいが、今の補助の仕組みを大きく逸脱するのはなかなか難しい。

地域に還元できるようなインセンティブができればと思う。

まず積み残しが気になるので、対応を考えていただきたい。過去の経験もあると思うので、それらを踏まえていろいろと考えていただきたい。

(以 上)

協議事項③：神戸市地域公共交通会議 運賃協議会設置要綱の改定について

委 員：出席者 10 名、欠席者 2 名（合意書）

学識経験者	土井 勉、猪井 博登（合意書）
市民代表	植田 里美、坂本 順子
交通事業者	大野 宗誉、円城 陽樹
各種団体	新屋敷 昭一、下谷 富雄、三宅 勝、大場 光彦（植野 良子の代理出席）
関係行政機関	木原 健太、鎗水 正和（合意書）、黒阪 貢一、前田 英輝、久保 真成

→協議が整った

主な発言内容：

特になし

(以 上)

報告事項：垂水区塩屋地域コミュニティ交通「しおかぜ」の運行内容変更（軽微）について

委 員：出席者 13 名、欠席者 3 名（事前合意書 2 名、当日欠席 1 名）

学識経験者	土井 勉、猪井 博登（合意書）
市民代表	植田 里美、坂本 順子
交通事業者	大野 宗誉、円城 陽樹
各種団体	新屋敷 昭一（当日欠席）、下谷 富雄、三宅 勝、 大場 光彦（植野 良子の代理出席）
関係行政機関	木原 健太、鎗水 正和（合意書）、黒阪 貢一、前田 英輝、久保 真成

主な発言内容：

特になし

(以 上)